

Vijaya suttaṃ (Sutta-nipāta I -11)

ヴィジャヤ スッタ

193. Caram vā yadi vā titthaṃ, nisinno uda vā sayam;
チャランワー ヤディ ワー ティッタ ンニシンノー ウダ ワー サヤン
Sammiñjeti pasāreti, esā kāyassa iñjanā.
サンミンジェーティ パサーレーティ エーサー カーヤッサ インジャナー
194. Atthīnahārusamyutto, tacamaṃsāvalepano;
アッティナーハールサンユットー タチャマンサーワレーパノ
Chaviyā kāyo paṭicchanno, yathābhūtaṃ na dissati.
チャヴィヤー カーヨー パティッチャンノー ヤターブータン ナ ディッサティ
195. Antapūro udarapūro, yakapeḷassa vatthino;
アンタプーロー ウダラプーロー ヤカペーラッサ ワッティノー
Hadayassa papphāsassa, vakkassa pihakassa ca.
ハダヤッサ パPPERASSA ワッカッサ ピハカッサ チャ
196. Siṅghāṇikāya kheḷassa, sedassa medassa ca;
スィンガーニカーヤ ケーラッサ セーダッサ メーダッサ チャ
Lohitassa lasikāya, pittassa ca vasāya ca.
ローヒタッサ ラスイカーヤ ピッタッサ チャ ワサーヤ チャ
197. Athassa navahi sotehi, asucī savati sabbadā;
アタッサ ナワヒ ソーテーヒ アスチー サワティ サッパダー
Akkhimhā akkhigūthako, kaṇṇamhā kaṇṇagūthako.
アッキンハー アッキグータコー カンナンハー カンナグータコー

勝利の経

193. 歩く、立つ、座る、横たわる、
伸ばす、縮む。身体の動きはこれだけです。
194. (この身体は) 骨と髓で組み立て、肉と皮膚で舗装されている。
皮膚に隠れているのでありのままには観られない。
195. 身体は腸に充ち、胃に充ち、また、肝臓の塊・膀胱・
心臓・肺臓・腎臓・脾臓があります。
196. (この身体には) 鼻汁・唾液・汗・脂肪・
血・関節液・胆汁・膏がある。
197. またその九つの孔からは、常に不浄物が流れ出る。
目からは目やに、耳からは耳垢、

198. **Siṅghāṇikā ca nāsato, mukhena vamatekadā;**
 スィンガーニカー チャ ナーサトー ムケーナ ワマテーカダー
Pittaṃ semhañca vamati, kāyamhā sedajallikā.
 ピッタṃ センハンチャ ワマティ カーヤンハー セーダジャツリカー
199. **Athassa susiraṃ sīsaṃ, matthaluṅgassa pūritaṃ;**
 アタッサ スシラン スィーサン マツタルンガッサ プーリタン
Subhato naṃ maññati, bālo avijjāya purakkhato.
 スバトー ナン マンニャティ バーロー アヴィツジャーヤ プラツカトー
200. **Yadā ca so mato seti, uddhumāto vinīlako;**
 ヤダー チャ ソー マトー セーティ ウッドウマートー ヴィニーラコー
Apaviddho susānasmim, anapekkhā honti ñātayo.
 アパヴィッドー スサーナスミン アナペッカー ホンティ ニャータヨー
201. **Khādanti naṃ supānā ca, sigālā ca vakā kimī;**
 カーダンティ ナン スパーナー チャ スィガーラー チャ ワカー キミー
Kākā gijjhā ca khādanti, ye caññe santi pāṇayo
 カーカー ギツジャー チャ カーダンティ イェー チャンニェー サンティ パーナヨー
202. **Sutvāna buddhavacanaṃ, bhikkhu paññāṇavā idha;**
 ストウワーナ ブツダワチャナン ビツク パンニャーナワー イダ
So kho naṃ pari jānāti, yathābhūtam hi passati.
 ソー コー ナン パリジャーナーティ ヤターブータン ヒ パツサティ
203. **Yathā idaṃ tathā etaṃ, yathā etaṃ tathā idaṃ;**
 ヤター イダン タター エータン ヤター エータン タター イダン
Ajjhattaṅ ca bahiddhā ca, kāye chandaṃ virājaye.
 アツジャツタン ヤ バヒツダー チャ カーイェー チャンダン ヴィラージャイエー

198. 鼻からは鼻汁が出る。口からはあるときは（食べたものを）吐く。
 またあるときは胆汁を、あるときは痰^{たん}を吐く。
 全身からは汗と垢^{あか}とを排泄する。
199. またその頭蓋骨^{ずがいこつ}の空室^{のうずい}は脳髓に充ちている。
 しかるに愚か者は無明に誘われて、
 身体を清らかなものだと思いなす。
200. またからだ^{からだ}が死んで横たわるとき、膨れて、青黒くなり、
 墓場に棄てられる。親族もこれを顧みない。
201. 犬や野狐^{やこ}や狼や虫類がこれを喰らい、
 鳥^{からす}や鷲^{わし}やその他の生き物がこれを啄^{ついば}む。
202. ブツダのことばを聞いて、智慧ある修行者は、
 この（身体の）ことを完全に了解する。あるがままにのみ観る。
203. 〈かの死んだ身も、この生きた身のごとくであつた。
 この生きた身も、かの死んだ身のごとくになるであろう〉と、
 自分の身体に対する欲をも、他人の身体に対する欲をも、
 離れるべきである。

204. Chandarāgaviratto so, bhikkhu paññāṇavā idha;
 チャンダラーガヴィラットー ソー ビック バンニャーナワー イダ
 Ajjhagā amatam̐ santim̐, nibbāna padamaccutam̐.
 アッジャガー アマタン サンティン ニッバーナ パダマッチュタン
205. Dipādakoyaṃ asuci, duggandho parihīrati;
 デイパーダコーヤン アスチ ドウッグアンドー パリヒーラティ
 Nānākuṇapa paripūro, vissavanto tato tato.
 ナーナクナパ パリプーロー ヴィッサワントー タトー タトー
206. Etādisena kāyena, yo maññe uṇṇametave;
 エーターデイセーナ カーイェーナ ヨー マンニェー ウンナメータヴェー
 Param̐ vā avajāneyya, kimaññatra adassanāti.
 パラン ワー アワジャーネッヤ キマンニャトウラ アダッサナーティ

Vijayasuttaṃ ekādasamaṃ niṭṭhitaṃ.

204. 愛欲を離れた智慧ある修行者は、
 不死・平安・不滅なるニッバーナ(涅槃)という最高の境地に達した。
205. 不浄で、悪臭を放つ、この身体を人間が守っている。
 種々の汚物が充満し、ここかしこから流れ出ている。
206. このような身体をもちながら、
 自分を偉いものだと思い、また他人を軽蔑するならば、
 かれは〈観る能力が無い〉という以外の何だろう。

11 番の勝利の経完了

勝利の経

自分の身体をあまりにも可愛がると修行が後退することになります。
 身体を気にすることは執着です。執着を捨てるための実践を成功させるには「ありのままの身体を観察する」
 のです。お釈迦様の時代では修行者達がこの經典を日夜唱えて、「身体のことを気になって修行に励めない」
 というころのわだかまりを解いたのです。
 解脱を体験しようとする戦いで勝利を得るための經典です。